



marantz®

**Integrated Amplifier
PM6006**

取扱説明書

目次

接続のしかた

再生のしかた

設定のしかた

困ったときは

付録

目次

使用上のご注意	4
携帯電話使用時のご注意	4
お手入れについて	4
結露(つゆつき)について	4
付属品	5
乾電池の入れかた	6
リモコンの使いかた	6
特長	7
高音質	7
多彩な機能	7
簡単操作	8
各部の名前	9
フロントパネル	9
リアパネル	11
リモコン	12

接続のしかた

スピーカーを接続する	18
スピーカー A/B 接続	19
バイワイヤリング接続	20
再生機器を接続する	21
録音機器を接続する	22
デジタル音声出力端子付きの機器を接続する	23
リモートコントロール端子付きの機器を接続する	24
マランツ製オーディオ機器をリモート接続する	24
電源コードを接続する	25

再生のしかた

電源を入れる	27
音声を出力するスピーカーを選ぶ	28
入力ソースを選ぶ	28
音量を調節する	28
一時的に音を消す(ミュートイング)	28
音質を調節する	28
CD を再生する	29
デジタル機器と接続して再生する(Coaxial/Optical)	30
録音する	31

設定のしかた

オートスタンバイモードを設定する	33
オートスタンバイモードをオンにする	33
オートスタンバイモードをオフにする	33
リモコン信号の受信機能を設定する	34
リモコン信号の受信機能を無効にする	34
リモコン信号の受信機能を有効にする	34
リモコンコードを設定する	35
リモコンのリモコンコードを設定する	36
本体のリモコンコードを設定する	36

困ったときは

こんなときの解決方法	38
故障かな?と思ったら	39
保証と修理について	43

付録

D/A コンバーターについて	45
用語の解説	45
主な仕様	46
索引	49

使用上のご注意

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、やわらかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

結露(つゆつき)について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部(動作部)に水滴が付くことがあります(結露)。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1~2 時間放置してから使用してください。

ステレオ音のエチケット






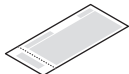
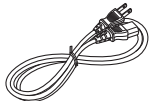
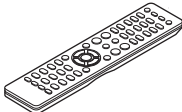

音のエチケット

- 隣近所への配慮(おもいやり)を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

お買い上げいただきありがとうございます。
本機をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

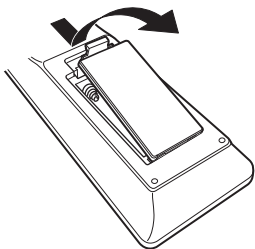
付属品

ご使用になる前にご確認ください。

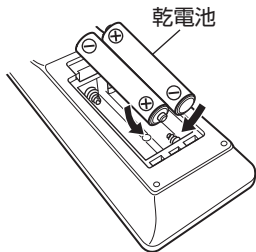
 かんたんスタートガイド	 取扱説明書(本書)	 安全にお使いいただくために	 保証書
 電源コード【本機専用】	 リモコン (RC003PMCD)	 単4形乾電池(2本)	

乾電池の入れかた

- 1 裏ぶたを矢印の方向へ押し上げて取り外す。



- 2 乾電池(2本)を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。



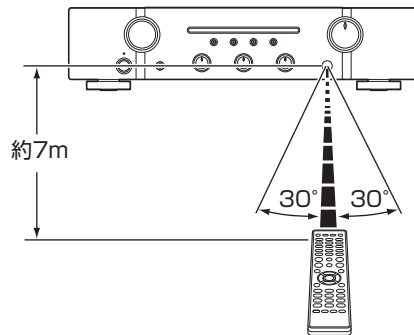
- 3 裏ぶたを元どおりにする。

ご注意

- 破損・液漏れの恐れがありますので、
 - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
 - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けて使用してください。



特長

高音質

• フルディスクリット・電流帰還型アンプ

プリアンプとパワーアンプには高速の電流帰還方式の増幅回路を採用し、スーパーオーディオ CD プレーヤーからの信号を忠実に増幅します。また、高速の電流帰還アンプは自然な音場空間を再現します。

• ハイパワー出力

スリムなボディながら、大型電源部によるハイパワーで音楽を躍動的に再生します。

• 高音質設計

信号経路の最短化や高音質パーツの採用、ゆとりのある電源回路など単品コンポーネントならではの高音質設計です。

• レコードプレーヤーを接続できるフォノ入力端子を搭載

フォノアンプを搭載していますので、レコードプレーヤーをそのまま接続してお楽しみいただくことができます。(MM カートリッジのみに対応します。)([P.21 ページ](#))

• 2 系統スピーカー出力端子搭載

スピーカー A / スピーカー B の 2 組のスピーカーを駆動するのはもちろん、高域・低域用に入力端子が分かれたバイワイヤリング対応のスピーカーにも接続できます。([P.20 ページ](#))

端子には太めのスピーカーケーブルでも確実に接続できるスクリュー式を採用しました。

多彩な機能

• デジタル音声入力端子(Coaxial, Optical 1/2)を搭載

本機には、テレビなどの外部機器のデジタル音声を入力できるデジタル音声入力端子を装備しています。音質の重要な要素を占める D/A コンバーターには当社のスーパーオーディオ CD プレーヤーに採用し定評のある高精度なシーラスロジック社製 CS4398 を使用しています。

• トーンコントロール機能

低音域および高音域の強弱を調節するトーンコントロール機能を搭載していますので、システムにあわせて好みの音質に調節できます。([P.29 ページ](#))

• ラウドネス機能

小音量再生時に音楽を聞き取りやすくするラウドネス機能を搭載しています。([P.29 ページ](#))

簡単操作

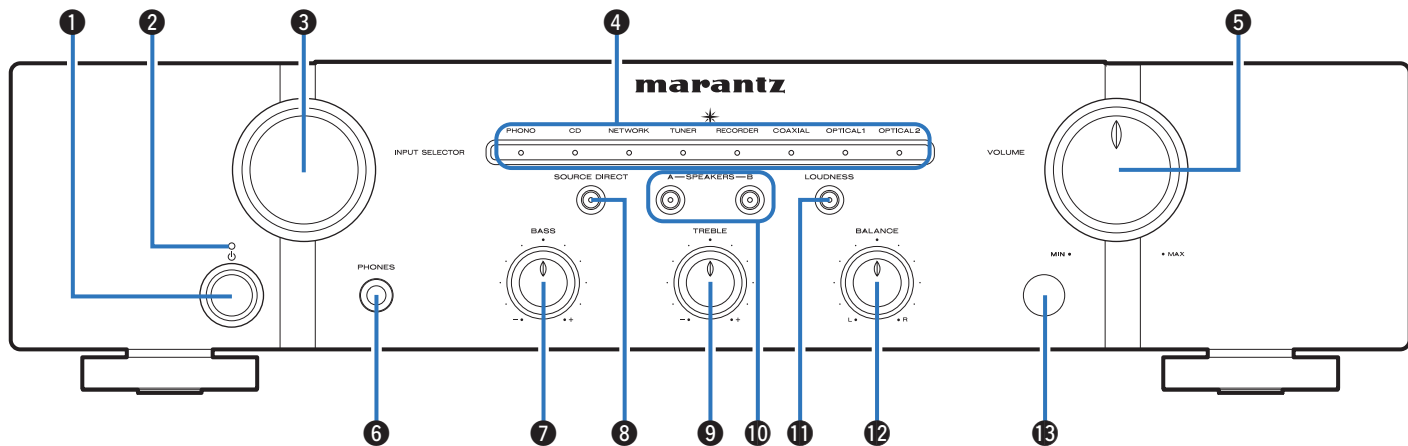
- **CDプレーヤーやネットワークオーディオプレーヤー対応のリモコン**

本機に付属しているリモコンは、本機の他にマランツ製CDプレーヤーやネットワークオーディオプレーヤーも操作できます。(P.13 ページ)

また、本機は3種類のリモコンコードを切り替えることができます。本機3台を同じ場所でお使いになるときなどに、3台に別々のリモコンコードを設定すると、それぞれ独立した操作ができます。(P.36 ページ)

各部の名前

フロントパネル



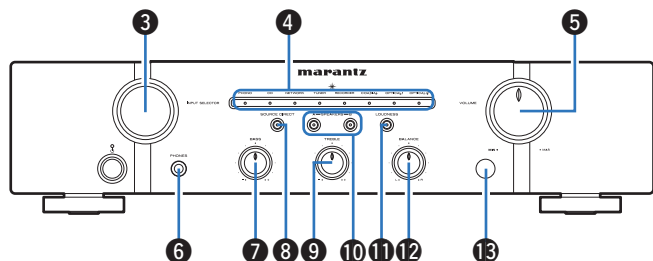
① 電源ボタン(⏻)

本機の電源をオン/オフします。(P.27ページ)

② 電源表示

電源の状態によって、次のように点灯します。

- 電源オン時: 消灯
- スタンバイ時: 赤色
- 電源オフ時: 消灯
- 保護回路動作時: 赤色(点滅)



③ 入力ソース切り替えつまみ (INPUT SELECTOR)

入力ソースを切り替えます。(☞28 ページ)

④ 入力表示 (☞28 ページ)

⑤ 音量調節つまみ (VOLUME)

音量を調節します。(☞28 ページ)

⑥ ヘッドホン端子 (PHONES)

ヘッドホンを接続します。

ヘッドホンをご使用になるときは、スピーカーの出力をオフにしてください。(☞28 ページ)

ご注意

- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

⑦ 低音調節つまみ (BASS)

低音の音量を調節します。(☞28 ページ)

⑧ ソースダイレクトボタン/表示 (SOURCE DIRECT)

ソースダイレクトモードをオン/オフします。(☞29 ページ)

⑨ 高音調節つまみ (TREBLE)

高音の音量を調節します。(☞28 ページ)

⑩ スピーカー切り替えボタン/表示 (SPEAKERS A/B)

音声を出力するスピーカーを選びます。(☞28 ページ)

⑪ ラウドネスボタン/表示 (LOUDNESS)

ラウドネスモードをオン/オフします。
(☞29 ページ)

⑫ バランス調節つまみ (BALANCE)

左右のスピーカーから出力する音量のバランスを調節します。
(☞28 ページ)

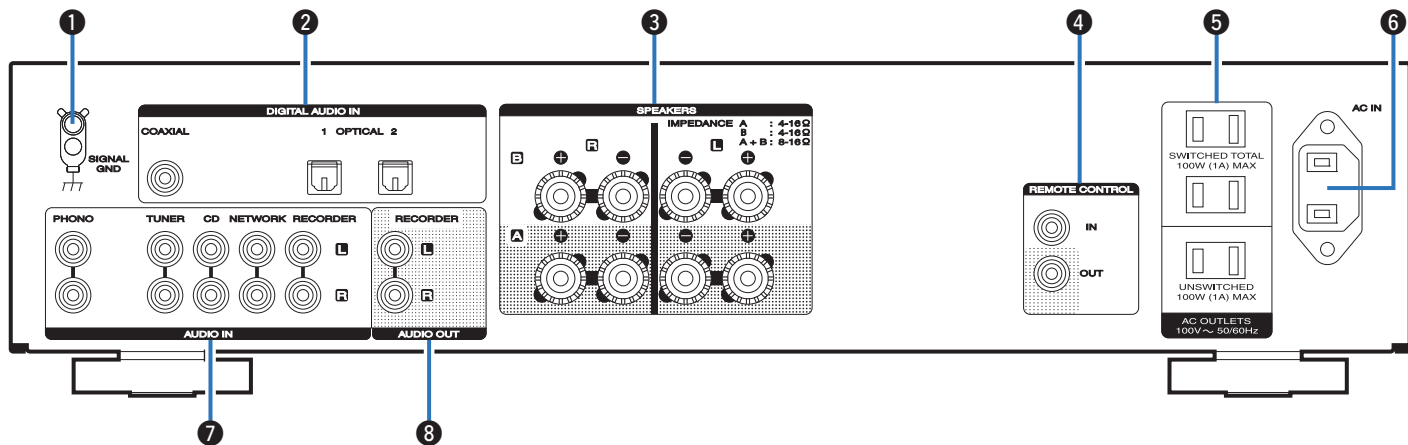
⑬ リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。(☞6 ページ)



- ⑦、⑨、⑪、⑫ は ⑧ が消灯 (SOURCE DIRECT モードがオフ) のときに調節できます。

リアパネル



① アース端子(SIGNAL GND)

レコードプレーヤーを接続します。(☞21 ページ)

② デジタル音声入力端子(COAXIAL/OPTICAL 1/2)

テレビやデジタル音声端子付きの機器を接続します。(☞23 ページ)

③ スピーカー端子(SPEAKERS)

スピーカーを接続します。(☞18 ページ)

④ リモートコントロール入出力端子(REMOTE CONTROL)

リモートコントロール機能に対応しているマランツ製オーディオ機器を接続します。(☞24 ページ)

⑤ AC アウトレット(AC OUTLETS)

他の AV 機器の電源コードを接続します。(☞25 ページ)

⑥ AC インレット(AC IN)

電源コードを接続します。(☞25 ページ)

⑦ アナログ音声入力端子(AUDIO IN)

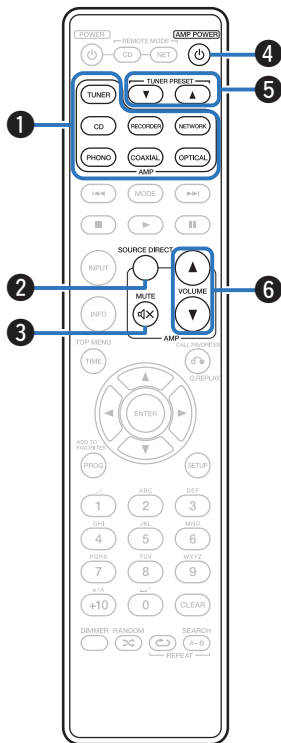
アナログオーディオ端子付きの機器を接続します。

- 「再生機器を接続する」(☞21 ページ)
- 「録音機器を接続する」(☞22 ページ)

⑧ アナログ音声出力端子(AUDIO OUT/RECORDER)

録音機器の入力端子を接続します。(☞22 ページ)

リモコン

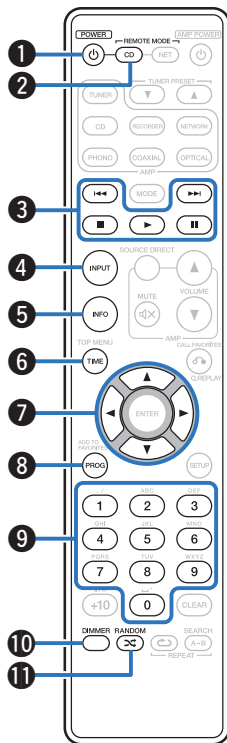


■ アンプやチューナーの操作

- 1 **入力ソース切り替えボタン**
入力ソースを切り替えます。(P.28 ページ)
- 2 **ソースダイレクトボタン(SOURCE DIRECT)**
ソースダイレクトモードをオン/オフします。(P.29 ページ)
- 3 **ミュートボタン(MUTE \times)**
消音します。(P.28 ページ)
- 4 **電源ボタン(AMP POWER ⏻)**
本機の電源をオン/オフ(スタンバイ)します。(P.27 ページ)
- 5 **選局ボタン(TUNER PRESET \blacktriangle \blacktriangledown)**
チューナーにプリセット登録している放送局を選びます。
- 6 **音量調節ボタン(VOLUME \blacktriangle \blacktriangledown)**
音量を調節します。(P.28 ページ)



- 5 はマランツ製チューナー(別売り)用の操作ボタンです。



■ CD プレーヤーの操作

付属のリモコンは本機だけでなく、マランツ製 CD プレーヤーも操作できます。マランツ製 CD プレーヤーを操作するときは、リモートモード選択ボタン(REMOTE MODE CD)を押して、リモコンを CD プレーヤーの操作モードに切り替えます。

- リモートモード選択ボタン(REMOTE MODE CD)ボタンが約 2 秒間点灯します。

① 電源ボタン(POWER ㊦)

② リモートモード選択ボタン(REMOTE MODE CD)

③ システムボタン

- スキップボタン(⏮️▶️)
- ストップボタン(■)
- プレイボタン(▶️)
- ポーズボタン(⏸️)

④ 入力ソース切り替えボタン(INPUT)

⑤ インフォメーションボタン(INFO)

⑥ 時間表示ボタン(TIME)

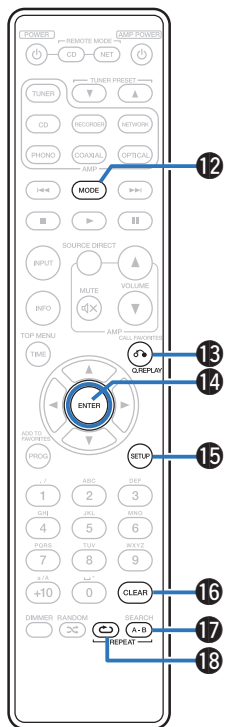
⑦ カーソルボタン(⬆️⬇️⬇️⬆️)


⑧ プログラムボタン(PROG)

⑨ 数字ボタン(0~9)

⑩ 明るさ調節ボタン(DIMMER)

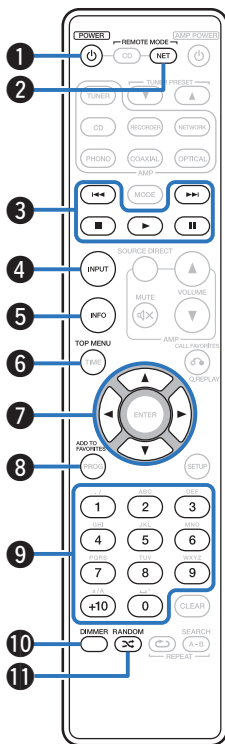
⑪ ランダムボタン(RANDOM 🎲)



- ⑫ モードボタン(MODE)
- ⑬ クイックリプレイボタン(Q.REPLAY)
- ⑭ エンターボタン(ENTER)
- ⑮ セットアップボタン(SETUP)
- ⑯ クリアボタン(CLEAR)
- ⑰ A-B 間リピートボタン(REPEAT A-B)
- ⑱ リピートボタン(REPEAT )



• リモコンの操作モードが CD プレーヤーのときも、アンプやチューナーの操作ボタンでアンプやチューナーを操作できます。

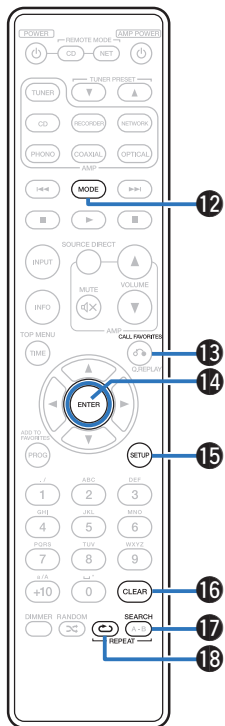



■ ネットワークオーディオプレーヤーの操作

付属のリモコンは本機だけでなく、マランツ製ネットワークオーディオプレーヤーも操作できます。マランツ製ネットワークオーディオプレーヤーを操作するときは、リモートモード選択ボタン (REMOTE MODE NET) を押して、リモコンをネットワークオーディオプレーヤーの操作モードに切り替えます。

- リモートモード選択ボタン (REMOTE MODE NET) が約 2 秒間点灯します。

- ① 電源ボタン (POWER ϕ)
- ② リモートモード選択ボタン (REMOTE MODE NET)
- ③ システムボタン
 - スキップボタン (\lll , \ggg)
 - ストップボタン (\blacksquare)
 - プレイボタン (\blacktriangleright)
 - ポーズボタン (\parallel)
- ④ 入力ソース切り替えボタン (INPUT)
- ⑤ インフォメーションボタン (INFO)
- ⑥ トップメニューボタン (TOP MENU)
- ⑦ カーソルボタン (Δ ∇ \triangleleft \triangleright)
- ⑧ お気に入り登録ボタン (ADD TO FAVORITES)
- ⑨ 数字ボタン (0~9、+10)
- ⑩ 明るさ調節ボタン (DIMMER)
- ⑪ ランダムボタン (RANDOM \times)



- ⑫ モードボタン(MODE)
- ⑬ お気に入り呼び出しボタン(CALL FAVORITES)
- ⑭ エンターボタン(ENTER)
- ⑮ セットアップボタン(SETUP)
- ⑯ クリアボタン(CLEAR)
- ⑰ サーチボタン(SEARCH)
- ⑱ リPEATボタン(REPEAT )



- リモコンの操作モードがネットワークオーディオプレーヤーのときも、アンプやチューナーの操作ボタンでアンプやチューナーを操作できます。

接続のしかた

目次






スピーカーを接続する	18
再生機器を接続する	21
録音機器を接続する	22
デジタル音声出力端子付きの機器を接続する	23
リモートコントロール端子付きの機器を接続する	24
電源コードを接続する	25

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続ケーブルは、電源コードと一緒に束ねないでください。雑音の原因になります。

接続に使用するケーブル

接続する機器に合わせて、必要なケーブルを準備してください。

スピーカーケーブル	
同軸デジタルケーブル	
光伝送ケーブル	
オーディオケーブル	
リモート接続ケーブル	

スピーカーを接続する

ご注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、+側と-側が接触したりすると、保護回路が動作します。(「保護回路」(P45 ページ))
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。
- スピーカーは次のインピーダンスのものをお使いください。

ご使用になる本機のスピーカー端子	接続するスピーカー数	スピーカーインピーダンス
SPEAKERS A (標準的な接続)	2本(1組)	4~16Ω
SPEAKERS B	2本(1組)	4~16Ω
SPEAKERS A および SPEAKERS B	4本(2組)	8~16Ω
SPEAKERS A および SPEAKERS B (バイワイヤリング接続時)	2本(1組)	4~16Ω

■ スピーカーケーブルを接続する

本機と接続するスピーカーの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、+ (赤)、- (黒)をよく確認して、同じ極性を接続してください。

- 1 スピーカーケーブル先端の被覆を10mm程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。



- 2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。



- 3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。



- 4 スピーカー端子を右に回して締める。

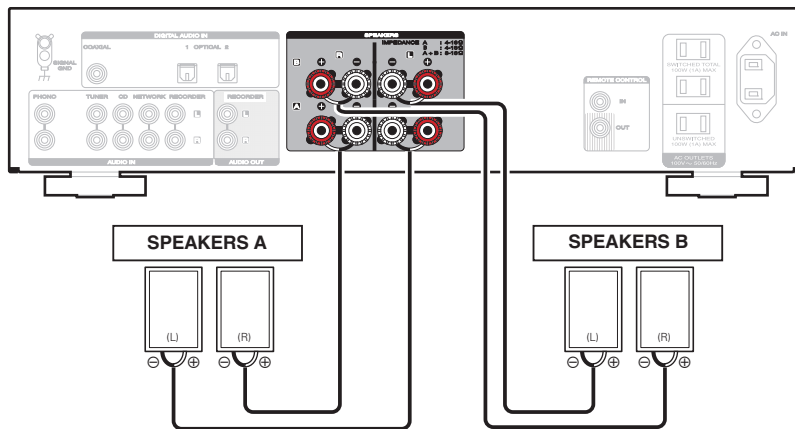


スピーカー A/B 接続

本機には、2 系統のスピーカー端子(SPEAKER A および SPEAKER B)があります。それぞれに 1 組ずつ、最大 2 組のスピーカーを接続できます。

SPEAKERS A 端子および SPEAKERS B 端子からは同じ信号を出力します。

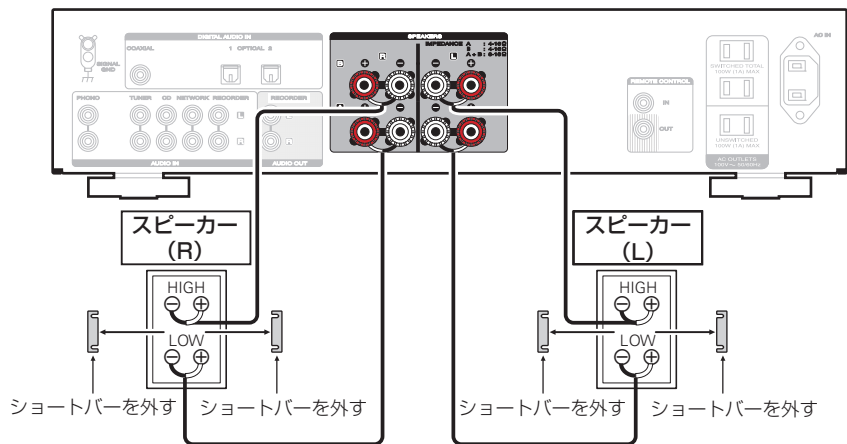
スピーカーを 1 組のみ接続するときは、SPEAKERS A または SPEAKERS B 端子のどちらかに接続してください。



バイワイヤリング接続

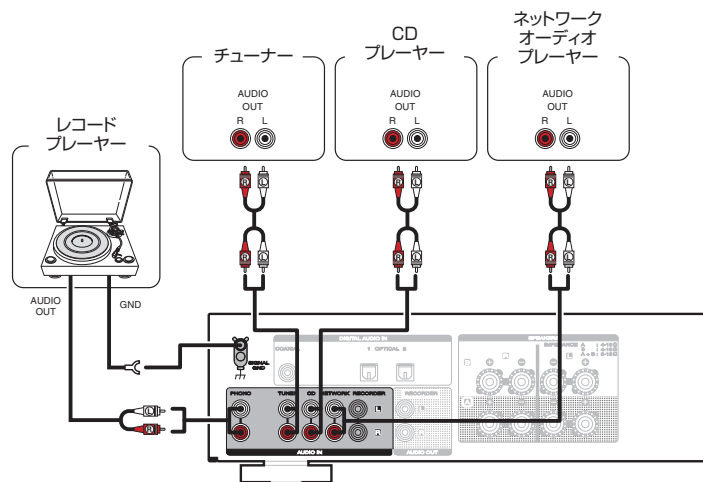
この接続では高域用スピーカー(ツイーター)と低域用スピーカー(ウーファー)間の信号が干渉することによる音質への影響をおさえることができるため、高品位な再生をお楽しみいただけます。

バイワイヤリング接続に対応しているスピーカーの高域用入力端子と SPEAKERS A(または SPEAKERS B)を、低域用入力端子と SPEAKERS B(または SPEAKERS A)をそれぞれ接続してください。



再生機器を接続する

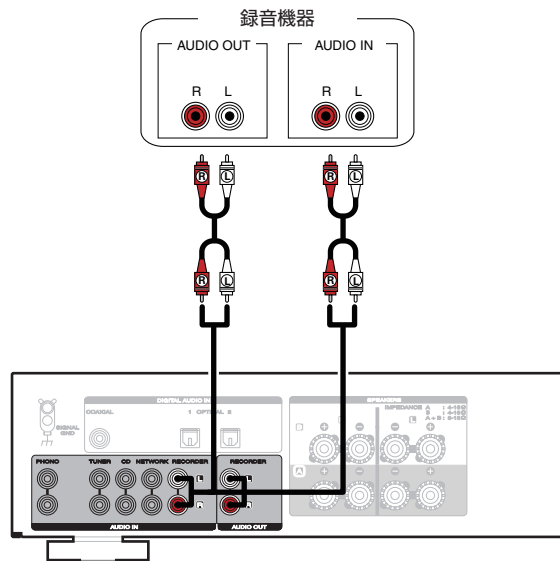
本機には、レコードプレーヤー、チューナー、CDプレーヤーおよびネットワークオーディオプレーヤーを接続できます。また、本機はMMカートリッジ付きのレコードプレーヤーに対応しています。MCカートリッジ付きのレコードプレーヤーを接続する場合は、別売りのMCヘッドアンプまたは昇圧トランスを使用してください。本機の入力ソースを“PHONO”にし、レコードプレーヤーを接続せずに音量を上げると、“ブーン”という雑音が発生することがあります。



ご注意

- 本機のアース端子(SIGNAL GND)は、安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆に雑音が大きくなることがあります。この場合は、アース線を接続する必要はありません。

録音機器を接続する

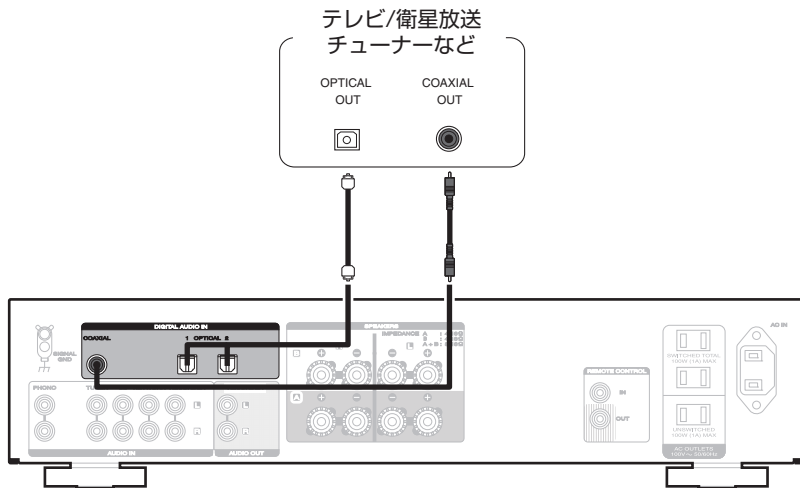


ご注意

- レコーダー出力端子(AUDIO OUT RECORDER)にショートピンプラグを挿入しないでください。故障の原因になります。

デジタル音声出力端子付きの機器を接続する

本機にデジタル音声信号を入力し、本機の D/A コンバーターで D/A 変換をおこなって再生する接続です。(P.30 ページ)



ご注意

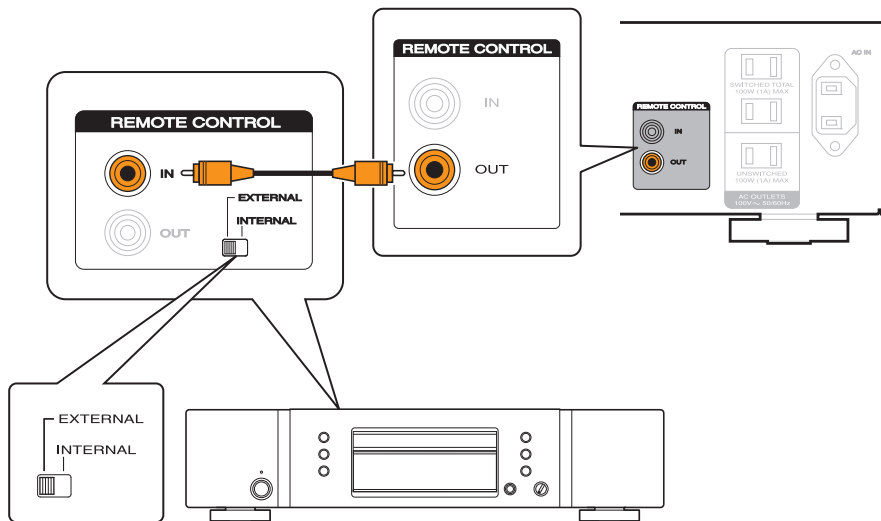
- 本機に入力できるのは、サンプリング周波数が 32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、192kHz のリニア PCM 信号です。
- ドルビーデジタル、DTS、AAC などのリニア PCM 信号以外の信号は入力しないでください。雑音が発生し、スピーカーを破損する恐れがあります。

リモートコントロール端子付きの機器を接続する

マランツ製オーディオ機器をリモート接続する

マランツ製オーディオ機器に付属しているリモート接続ケーブルを使用して REMOTE CONTROL IN/OUT 端子に機器を接続するだけでリモコン信号を転送できます。

この接続をおこなう場合は、本機と接続する機器の背面に装備されているリモートコントロールスイッチを “EXTERNAL” に設定してください。



電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、電源プラグをコンセントに差し込みます。

■ AC アウトレットへの接続について

本機は、AC アウトレットから他の AV 機器に電源を供給できません。

□ SWITCHED(連動)

本機の電源のオン/スタンバイに連動し、電源供給をオン/オフします。

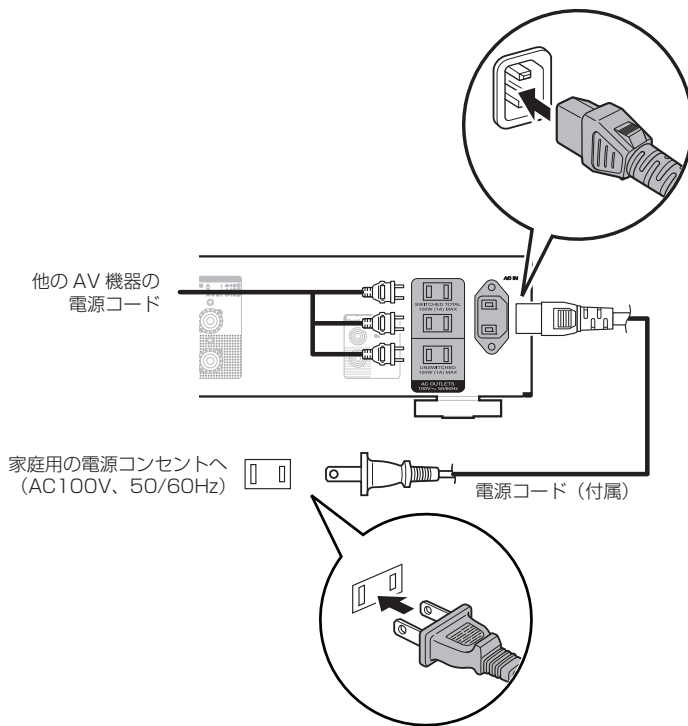
消費電力が合計で 100W(1A)までの AV 機器を接続できます。

□ UNSWITCHED(非連動)

本機の電源のオン/スタンバイにかかわらず、電源を供給します。
消費電力が最大 100W(1A)までの AV 機器を接続できます。

警告

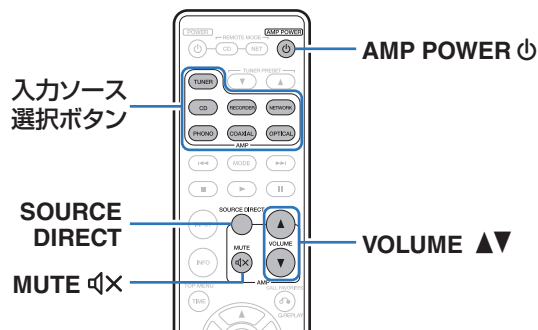
絶対許容電力以上の機器を接続しないでください。許容電力以上の機器を接続すると、火災・感電の原因となります。



再生のしかた

■ 目次

電源を入れる	27
音声を出力するスピーカーを選ぶ	28
入力ソースを選ぶ	28
音量を調節する	28
一時的に音を消す(ミュート)	28
音質を調節する	28
CD を再生する	29
デジタル機器と接続して再生する(Coaxial/Optical)	30
録音する	31



電源を入れる

- 1 本体の ❶ を押して、電源を入れる。
選択している入カソースの表示が点灯します。

ご注意

- 電源を入れる前に、本体の VOLUME を回して、音量を最小にしてください。

電源をスタンバイにする

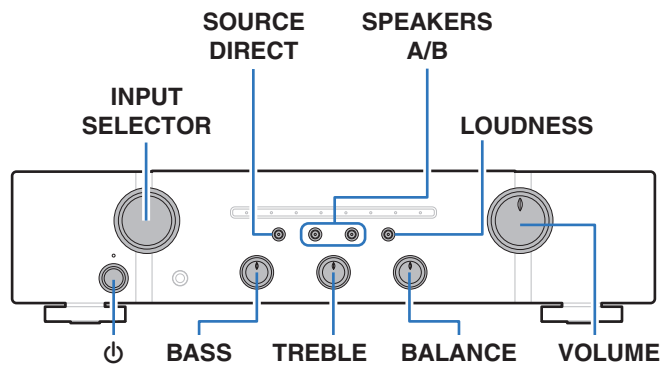
- 1 リモコンの AMP POWER ❶ を押す。
電源表示が赤色に点灯します。

注意

- スタンバイ状態から再び電源を入れるときは、AMP POWER ❶ を押ししてください。
- スタンバイ状態のときに本体の INPUT SELECTOR を回しても、電源がオンになりません。

ご注意

- 電源をスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電しています。長期間の外出やご旅行の場合は、本体の ❶ を押しして電源を切るか、電源プラグをコンセントから抜いてください。



目次
接続のしかた
再生のしかた
設定のしかた
困ったときは
付録

音声を出力するスピーカーを選ぶ

- 1 **SPEAKERS A/B** を押して、再生するスピーカーを選ぶ。
選択したスピーカーの表示が点灯します。



- ヘッドホンをご使用になるときは、**SPEAKERS A/B** を押して表示を消灯し、スピーカー端子からの音声出力をオフにしてください。

入力ソースを選ぶ

- 1 入力ソース切り替えボタンを押して、再生する入力ソースを選ぶ。
選択した入力ソースの表示が点灯します。



- 本体の **INPUT SELECTOR** を回しても、入力ソースを選択できます。

音量を調節する

- 1 **VOLUME ▲▼** を押して、音量を調節する。



- 本体の **VOLUME** を回しても、音量を調節できます。

一時的に音を消す(ミュートイング)

- 1 **MUTE ㊦** を押す。
選択している入力ソースの表示が赤色に点滅します。



- ミュートを解除するときには、もう一度 **MUTE ㊦** を押してください。

音質を調節する

- 1 **SOURCE DIRECT** を押して、ソースダイレクトモードをオフにする。
ソースダイレクト表示が消灯します。
- 2 本体の **BASS**、**TREBLE** および **BALANCE** を回して、音質を調節する。



- 本体の **SOURCE DIRECT** を押しても、ソースダイレクトモードをオフにできません。

CDを再生する

ここでは、CDの再生のしかたを例に説明します。

- 1 本体の **⏻** を押して、電源を入れる。
- 2 入力ソース切り替えボタン(CD)を押して、入力ソースを“CD”に切り替える。
入力表示の“CD”が点灯します。
- 3 CDを再生する。
- 4 VOLUME **▲▼** を押して、音量を調節する。

■ ソースダイレクトモードで再生する

音声信号が音質調節回路(BASS、TREBLE、BALANCE)を通らないため、より原音に忠実な再生ができます。

- 1 SOURCE DIRECT を押して、ソースダイレクトモードをオンにする。
ソースダイレクト表示が点灯します。

■ ラウドネスモードで再生する

低い音量で再生すると、低音や高音の量感が少なく聴こえます。このようなときにLOUDNESS機能を使用すると、低音と高音の音質を補正してより自然な再生をお楽しみいただけます。

- 1 LOUDNESS を押して、LOUDNESSモードをオンにする。
LOUDNESS表示が点灯します。

デジタル機器と接続して再生する (Coaxial/Optical)

- 1 デジタル機器を接続する。(P23 ページ)
- 2 入力ソース切り替えボタン(COAXIAL または OPTICAL)を押して、入力ソースを“COAXIAL”または“OPTICAL 1/2”に切り替える。
- 3 本機に接続しているデジタル機器の再生をはじめめる。
COAXIAL または OPTICAL 1/2 入力表示が点灯します。



- 本機が対応していないフォーマットの音声信号を入力したり、入力信号のサンプリング周波数を検出できない場合は、COAXIAL または OPTICAL 1/2 入力表示が、青色に点滅します。

- 4 VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。

■ 再生できる音声信号の仕様

「D/A コンバーターについて」(P45 ページ)をご覧ください。

ご注意

- ドルビーデジタル、DTS、AAC などのリニア PCM 以外の信号は入力しないでください。雑音が発生し、スピーカーが破損する恐れがあります。
- CS 放送の A モードから B モードなど、サンプリング周波数が切り替わったときには、1~2 秒程度消音になり、音が途切れることがあります。

録音する

本機に入力した音声信号を、外部の録音機器に出力することができます。本機に接続した再生機器の音声を録音する際、再生機器を本機に接続したまま録音できます。

- 1 本体の **電源** を押して、電源を入れる。
- 2 入力ソース切り替えボタンを押して、録音したい入力ソースに切り替える。
選択した入力ソースの表示が点灯します。
- 3 録音をはじめる。
 - 操作のしかたは、録音機器の取扱説明書をご覧ください。

設定のしかた

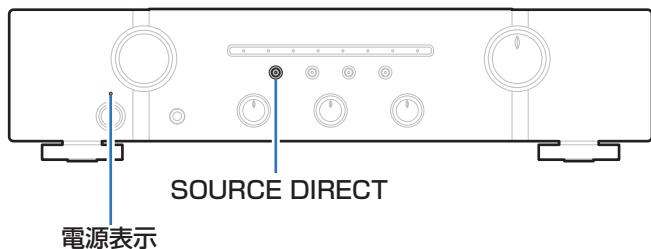
■ 目次

オートスタンバイモードを設定する	33
リモコン信号の受信機能を設定する	34
リモコンコードを設定する	35

オートスタンバイモードを設定する

音声の入力がない状態で本機を約 30 分間操作しないとき、自動的にスタンバイ状態になるように設定できます。(オートスタンバイモード)

お買い上げ時は、オートスタンバイモードを“オフ”に設定しています。



オートスタンバイモードをオンにする

- 1 SOURCE DIRECT を 5 秒以上押して、オートスタンバイモードをオンにする。
電源表示が 3 回点滅します。

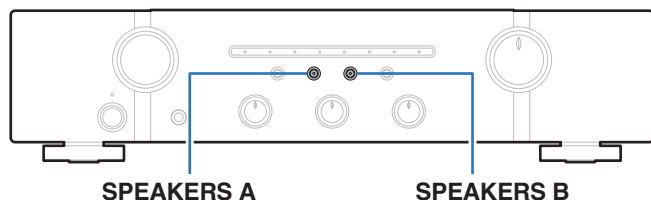
オートスタンバイモードをオフにする

- 1 SOURCE DIRECT を 5 秒以上押して、オートスタンバイモードをオフにする。
電源表示が 1 回点滅します。

リモコン信号の受信機能を設定する

本機はリモコン信号の受信機能を“無効”に設定できます。リモコンをお使いにならないときや、複数の本機を同じ場所でお使いになるときに必要に応じて設定してください。

お買い上げ時は、リモコン信号の受信機能を“有効”に設定しています。



リモコン信号の受信機能を無効にする

- 1 **SPEAKERS B** を約 5 秒間押して、リモコン信号の受信機能を無効にする。

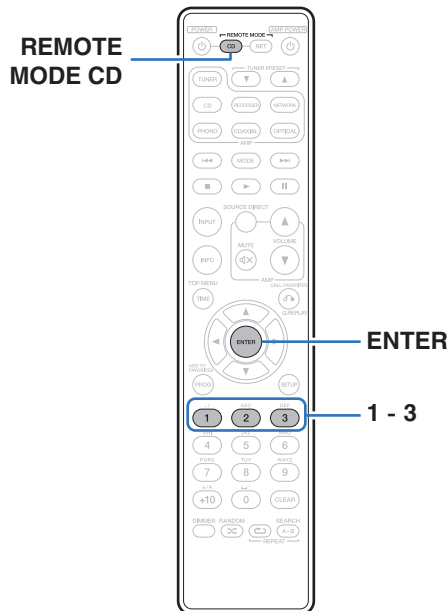
選択している入力ソースの表示が赤色に 3 回点滅します。

リモコン信号の受信機能を有効にする

- 1 **SPEAKERS A** を約 5 秒間押して、リモコン信号の受信機能を有効にする。

RECORDER 入力表示が青色に 3 回点滅します。

リモコンコードを設定する



本体と付属のリモコンにはリモコンコードが設定されています。それぞれ 3 種類のリモコンコードから 1 つのコードを選ぶことができ、本体とリモコンのコードが同じ場合にリモコンで本体を操作できます。本機 3 台を同じ場所に設置する場合、お買い上げ時の設定のままだと 1 つのリモコン操作に対して本体が 3 台とも同じ動作をします。本体とリモコンが 1 対 1 になるようにリモコンコードを個別に設定すると、1 つのリモコン操作に対してリモコンと同じコードを設定した本体のみ動作します。

リモコンコードを設定したあと、必ずそれぞれの機器の動作を確認してください。

お買い上げ時は“AMP1”に設定しています。

リモコンのリモコンコードを設定する

■ リモコンコードを AMP2 に設定する

1 REMOTE MODE CD と数字ボタンの 2 を同時に 5 秒以上押す。

■ リモコンコードを AMP3 に設定する

1 REMOTE MODE CD と数字ボタンの 3 を同時に 5 秒以上押す。



- リモコンコードをお買い上げ時の設定に戻すときは、REMOTE MODE CD と数字ボタンの 1 を同時に 5 秒以上押してください。

ご注意

- リモコンから乾電池を取り外すとお買い上げ時の設定に戻ります。乾電池を交換した場合は、リモコンコードを再設定してください。

本体のリモコンコードを設定する

- 1 リモコンコードを設定したリモコンを本体に向け、REMOTE MODE CD と ENTER を押す。
設定したリモコンコードにより、本体の入力表示が次のように点滅します。

リモコンコード	入力表示
AMP1	PHONO 表示が 3 回点滅
AMP2	CD 表示が 3 回点滅
AMP3	NETWORK 表示が 3 回点滅

困ったときは

■ 目次

こんなときの解決方法

テレビの音声を高音質で再生したい	38
好みの音質に調節したい	38
原音に忠実な再生をしたい	38
小音量で再生する場合でも、音楽を聞きやすくしたい	38
本機のリモコンでマランツの CD プレーヤーやネットワークオーディオプレーヤーを操作したい	38
本機を複数台同じ場所で使用したい	38

故障かな？と思ったら

電源が入らない / 電源が切れる	39
リモコンで操作ができない	40
音がまったく出ない	41
希望する音が出ない	41
音がひずんだり、ノイズが入ったりする	42

こんなときの解決方法

テレビの音声を高音質で再生したい

- テレビのデジタル音声出力端子を、本機のデジタル音声入力端子(COAXIAL または OPTICAL 1/2)に接続して、入力ソースを接続した端子(COAXIAL または OPTICAL 1/2)に切り替えてください。(P.23 ページ)
- 本機で再生できるデジタル音声信号は、2チャンネルリニア PCM です。

お好みの音質に調節したい

- 低音調節つまみ(BASS)、高音調節つまみ(TREBLE)、バランス調節つまみ(BALANCE)でお好みの音質に調節してください。(P.28 ページ)

原音に忠実な再生をしたい

- ソースダイレクトモードをオンに設定してください。(P.29 ページ)

小音量で再生する場合でも、音楽を聞きやすくしたい

- ラウドネスモードをオンに設定してください。(P.29 ページ)

本機のリモコンでマランツの CD プレーヤーやネットワークオーディオプレーヤーを操作したい

- リモコンの操作モードを切り替えてください。(「CD プレーヤーの操作」(P.13 ページ)、「ネットワークオーディオプレーヤーの操作」(P.15 ページ))
- CD プレーヤーまたはネットワークオーディオプレーヤーの取扱説明書もあわせてお読みください。

本機を複数台同じ場所で使用したい

- それぞれの機器とリモコンの組み合わせごとに別々のリモコンコードを設定してください。(P.36 ページ)

故障かな？と思ったら

最初に次のことを確認してください。

1. 各接続は正しいですか
2. 取扱説明書に従って正しく操作していますか
3. スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正しく動作しないときは、該当する症状に従ってチェックしてみてください。

なお、どの症状にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でもおわかりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

■ 電源が入らない / 電源が切れる

症状	原因 / 対策	関連ページ
電源が入らない。	• コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。	25
電源が自動的に切れる。	• オートスタンバイモードがオンになっています。音声入力がない状態で約 30 分間本機を操作しないでいると、本機は自動的にスタンバイになります。オートスタンバイモードをオフにするには、ソースダイレクトボタン(SOURCE DIRECT)を 5 秒以上押してください。	33
電源が切れ、電源表示が約 0.25 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいています。電源が切れている状態で、1 時間程度待ち、本機の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。	45
	• 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	—
	• スピーカーの接続を確認してください。スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路がはたらいている可能性があります。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどしたあとで、接続し直してください。	18
	• 音量を下げ、電源を入れ直してください。	27
	• 本機のアンプ回路が故障しています。電源コードを抜き、当社の修理相談窓口までご連絡ください。	—

■ リモコンで操作ができない

症状	原因 / 対策	関連ページ
リモコンで操作ができない。	• 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。	6
	• リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。	6
	• 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。	—
	• 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。	6
	• 本機のリモコン受光部に強い光(直射日光、インバーター式蛍光灯の光など)があたっています。受光部に強い光があたらない場所に設置してください。	—
	• 3D 映像機器をご使用の場合、各ユニット間(テレビや 3D 視聴用メガネなど)の無線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。その場合は、3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。	—
	• リモコン信号の受信機能を有効に設定してください。	34
	• 本体とリモコンのリモコンコードが異なっています。本体とリモコンのリモコンコードを同じコードに設定してください。	36

■ 音がまったく出ない

症状	原因 / 対策	関連ページ
スピーカーから音が出ない。	• すべての機器の接続を確認してください。	17
	• 接続ケーブルを奥まで挿してください。	—
	• 入力端子と出力端子を間違えて接続していないか確認してください。	—
	• ケーブルが破損していないか確認してください。	—
	• スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。ケーブルの芯線がスピーカー端子の金属部に接触していることを確認してください。	18
	• スピーカー端子をしっかり締めてください。また、スピーカー端子が緩んでいないか確認してください。	18
	• 適切な入力ソースが選択されていることを確認してください。	28
	• 主音量を適切な大きさに調節してください。	28
	• ミュート(消音)モードを解除してください。	28
	• SPEAKER A/B ボタンの設定を確認してください。	28
入力表示の COAXIAL または OPTICAL 1/2 が点滅している。	• 同軸デジタルケーブルまたは光伝送ケーブルの接続を確認してください。	23
	• 接続している機器のデジタル音声出力信号を 2 チャンネルリニア PCM に設定してください。	45

■ 希望する音が出ない

症状	原因 / 対策	関連ページ
特定のスピーカーから音が出ない。	• スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。	18
	• バランス調節つまみ(BALANCE)を調節してください。	28
ステレオ再生のときに、左右の音声が入れ替わっている。	• 左右のスピーカーが正しいスピーカー端子に接続されているか確認してください。	18

■ 音がはずんだり、ノイズが入ったりする

症状	原因 / 対策	関連ページ
レコード再生のときに、音がはずむ。	• 針圧を調節してください。	—
	• レコードの針先を確認してください。	—
	• カートリッジを交換してください。	—
レコード再生のときに、“ブーン”という雑音がスピーカーから出力される。	• レコードプレーヤーが正しく接続されていることを確認してください。	21
	• レコードプレーヤーの近くにテレビや AV 機器などがあると、再生音に影響を受ける場合があります。レコードプレーヤーをテレビや AV 機器などから離して設置してください。	—
レコード再生のときに音量を大きくすると、“ワーン”という雑音がスピーカーから出力される。(ハウリング現象)	• レコードプレーヤーとスピーカーを離して設置してください。	21
	• スピーカーの振動が床を通してプレーヤーに伝わる場合があります。スピーカーの振動をクッションなどで吸収させてください。	—

保証と修理について

■ 保証書について

- この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

■ 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

- 保証書が添付されない場合は有料修理になりますので、ご注意ください。

■ 保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。

■ 修理料金のしくみ

- 技術料・・・故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費・技術教育費・測定機器などの設備費・一般管理費などが含まれます。
- 部品代・・・修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材などを含む場合もあります。
- 出張料・・・製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途駐車料金をいただく場合があります。

■ 補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

■ 修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな?と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけず修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 修理お問い合わせ窓口へご相談ください。
- 出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただきますこととなりますので、あらかじめご了承ください。
- 修理を依頼されるためのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

■ 依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名……取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号……保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

■ お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者(保証責任者)およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

付録

D/A コンバーターについて

■ 再生できる音声信号の仕様

□ Coaxial/Optical 1/2

	サンプリング周波数	ビット長
リニア PCM (2チャンネル)	32/44.1/48/88.2/96/ 176.4/192kHz	16/24 ビット



- 本機が対応していないフォーマットの音声信号を入力したり、入力信号のサンプリング周波数を検出できない場合は、COAXIAL または OPTICAL 1/2 入力表示が、青色に点滅します。

用語の解説

サンプリング周波数

サンプリングとは、音の波(アナログ信号)を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化(デジタル信号化)することです。1秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、この数値が大きいほど原音に近い音を再現できます。

スピーカーインピーダンス

交流抵抗値のことで Ω (オーム) という単位であらわします。この値が小さいほど大きな電力が得られます。

ソースダイレクト

入力された音声信号を、音質調節回路(BASS/TREBLE/BALANCE)を通さずに出力するため、より原音に忠実な再生がおこなえます。

保護回路

何らかの原因で過負荷や過電圧、高温状態などの異常が起きたときに、電源内部の部品が破損するのを防止する機能です。

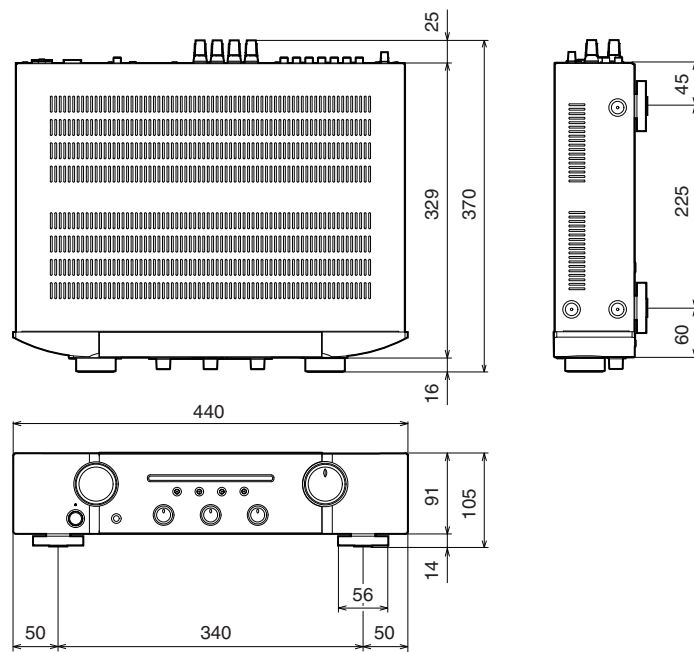
主な仕様

- 定格出力(20Hz~20kHz 両チャンネル同時駆動):
40W×2(8Ω 負荷)
55W×2(4Ω 負荷)
- 全高調波歪率(20Hz~20kHz 両チャンネル同時駆動、8Ω 負荷): 0.08%
- 出力帯域幅(8Ω 負荷、0.06%): 10Hz~50kHz
- 周波数特性(CD、1W、負荷 8Ω): 10Hz~70kHz +0dB、-1dB
- ダンピングファクター(8Ω 負荷、40Hz~20kHz): 100
- 入力感度/ 入力インピーダンス
 - PHONO(MM): 2.2mV/47kΩ
 - CD、TUNER、NETWORK、RECORDER: 200mV/20kΩ
- PHONO 最大許容入力(1kHz)MM: 100mV
- RIAA 偏差(20Hz~20kHz): ±1.0dB
- S/N 比(IHF A ネットワーク、負荷 8Ω)
 - PHONO(MM): 83dB(5mV 入力、1W 出力)
 - CD、TUNER、NETWORK、RECORDER: 102dB(2V 入力、定格出力)
- ヘッドホン出力: 50mW/32Ω

- トーンコントロール
 - BASS(50Hz): $\pm 10\text{dB}$
 - TREBLE(15kHz): $\pm 10\text{dB}$
- デジタル入力
 - 同軸出力: 0.5Vp-p
 - 光出力(角型光コネクタ): -27dBm 以上
- 電源: AC100V、50/60Hz
- 消費電力: 355W
- スタンバイ時の消費電力: 0.3W

仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

■ 寸法(単位:mm)



■ 質量:7.8kg

索引

🔊 B

BALANCE	28
BASS	28

🔊 C

CD プレーヤー	21, 29
----------------	--------

🔊 T

TREBLE	28
--------------	----

🔊 お

オートスタンバイモード	33
音量	28

🔊 こ

故障かな?と思ったら	39
こんなときの解決方法	38

🔊 す

スピーカー	18
スピーカー(パイワイヤリング)接続 ..	20
スピーカーインピーダンス	45

🔊 そ

ソースダイレクト	29, 45
----------------	--------

🔊 ち

チューナー	21
-------------	----

🔊 と

トーン	28
-----------	----

🔊 に

入力ソース	28
-------------	----

🔊 ね

ネットワークオーディオプレーヤー ..	21
---------------------	----

🔊 ほ

保護回路について	45
----------------	----

🔊 み

ミュートイング	28
---------------	----

🔊 ら

ラウドネスモード	29
----------------	----

🔊 り

リモートコントロール	24
リモコン	12
リモコンコード設定	36

🔊 れ

レコードプレーヤー	21
-----------------	----

🔊 ろ

録音機器	22
------------	----

当社製品のご相談と修理についてのお問い合わせは、お買い上げ店または下記窓口にご連絡ください。


お客様相談センター


 0570 (666) 112

FAX : 044 (330) 1367

- 受付時間 9:30～17:30
(当社休日および祝日を除く、月～金曜日)
 - 上記番号をご利用いただけない場合  050 (3388) 6801
〒210-8569 神奈川県川崎市川崎区日進町2番地1 D&Mビル
 - お問い合わせをいただく前に、ホームページのFAQをご確認ください。
<http://marantz.jp/jp/html/faq.html>
 - メールでお問い合わせをいただくこともできます。
<http://marantz.jp/jp/html/contact.html>
- * 電話番号・ファックス番号・URL は変更になる場合があります。

修理相談窓口

 0570 (666) 811

- 受付時間 9:30～12:00、13:00～17:30
(当社休日および祝日を除く、月～金曜日)
 - 上記番号をご利用いただけない場合  0466 (86) 9520
 - 故障・修理・その他のサービス関連情報については、次の当社ホームページでもご確認いただけます。
<http://marantz.jp/jp/html/service.html>
 - 代表修理窓口
首都圏サービスセンター
〒252-0816 神奈川県藤沢市遠藤2010-16
FAX : 0466 (86) 9522
- * ディーアンドエムホールディングス本社では製品の修理を受け付けておりません。

marantz®

株式会社 ディーアンドエムホールディングス

〒210-8569

神奈川県川崎市川崎区日進町2番地1 D&Mビル

Printed in Vietnam 5411 11403 00AMA

Copyright ©2016 D&M Holdings Inc. All Rights Reserved.